

湯成而試効功不異二泉。

〔尾張名所圖會前編六〕鹽湯治。

同村野大海音寺西北の方に當る海濱は巖石多くありて暑氣の

頃は遠近の諸人此海濱に出で潮水に浴し、まかしては又巖上に憩ひなど終日に幾度も出沒する事五日七日する時はあらゆる諸病を治す是を世に大野の鹽湯治といふかく暑月には浴湯する群集夥しくて數多の旅亭家ごとに二百人三百人を宿し他の温泉もかくまで諸人の輻湊するを聞ず又中人以上は旅館に此海潮を汲とらせ再び湧して浴するもありまかれども其効海中に身を涵せるには少し劣れりとぞ又浴湯の暇には此海中にて捕る所の鮮魚を飽までに食しつ、枯腸を潤し、虚弱を補ふも又治療の一助なるよし猶此濱に溢れたるは東浦其外所々に浴するあれば其繁昌推て知るべし、

〔嬉遊笑覽九〕風呂略。

中藥のためにする湯は病者發汗せむとて湯に入ることあり榮花物語本卷御風にやとてゆでさせ給ひて云々此外の卷にも見えたり宇鏡に、蝶以榮入湯云々奈由豆庭訓に、五木八草湯治風呂是は本草に見えたる藥湯なり貞徳文集霜月の文に、貴殿御望み桑風呂焚可申候狂言咄五、八瀬の釜風呂は都がたの人わづらひ有もの絶えず入侍り極て効あり黒木

といふ物をふすべける次でに釜ぶろをたつるに生木を焼てその氣をうくる誠に人身に藥なるべし。

〔榮花物語十二〕

大將殿藤原頼通日比御心ちなやましくおぼさる御風などにやとて御ゆでさせ給はをきこしめし御讀經の僧ども番か、すつかうまつるべくの給はせ略下

〔隣女語言一〕ゆで

榮花物語月宴に九條殿なやましようおぼされて御かせなどいひておほむゆでなどとしてくすりきこしめして云々此風のこ、ちにゆでするといへるはいかさまにするにか醫法に